

盛岡地域材利用促進意見交換会の開催について

1 はじめに

盛岡広域振興局林務部では、盛岡地域のアカマツ等資源の有効活用に向け、施工業者、設計業者、製材業者、森林組合及び行政が情報を共有し、連携して利用促進を図るため、毎年アカマツ等利用促進連絡会議を開催しておりましたが、今年度は地域材の利用促進と併せて、次世代の木材産業の担い手育成を図るため、盛岡農業高等学校(以下「盛農」という)を会場に林業関係者と盛農1年生を交えた意見交換会を実施したので紹介します。

2 盛農生と林業関係者で意見交換会

開催に当たっては、市丸副校長先生の挨拶に始まり、緊張をほぐすため手作り名刺の交換、理解醸成を図るため、盛岡広域森林組合、(有)二和木材の2事業体からお仕事紹介をいただいた後、高校生の柔らかい脳から発信される、斬新なアイデアを期待し、木材利用促進に係る意見交換会を行いました。意見交換会では、木製スマホ等なるほどイマドキだなと思う意見や、消しゴム等林業関係者では考えが及ばないような、意外な活用方法に、関係者一同良い刺激になったのではと思われま



3 Let's セーザイゲーム

意見交換会后、製材業への理解醸成を図るため、奥州市(有)阿部製材所の阿部高志社長ほか2名を講師に招き、森林管理局、市町職員、林業事業体で編成した林業プロ班VS盛農1年生班合計9班 約40名で、2023年ウッドデザイン賞受賞「セーザイゲーム」を実施しました。木材の取引事情を知る林業プロ班が、最も利益を出して1位となる結果となりました。

4 大型木造施設の建設事例紹介等

午後からは例年開催しているアカマツ等利用促進連絡会議の構成員を対象に、大型木造施設建設の参考とするため、(株)久慈設計様、岩手県森林組合連合会様から建設事例の紹介がありました。地元材を活用する際は、工期に合わせた材料確保が重要との説明があるなど、今後の地元材活用に向け参考となる事例紹介でした。

5 終わりに

盛農1年生は、本格的に林業を学習する前の参加となりましたが、アンケートに「林業についてもっと知りたい」「林業を就職先の一つとして考えられる」などの回答がありました。木材利用促進に繋がる意見交換と併せ、担い手不足に悩まされる木材産業の担い手育成が期待される取組となりました。全国では小中学生を対象とした、セーザイゲームの実施事例もあることから、今後も対象を拡大・継続することで、木材利用の促進と担い手確保に向けて取り組んでいきます。